

V-N型の漢語動詞の語構成と自他

張 善実

キーワード V-N型の漢語動詞、語構成、自他、ヲ格目的語、包摂関係、所属関係

1. はじめに

日本語の二字漢語サ変動詞には自動詞のみのもの（「読書する」、「爆発する」）、他動詞のみのもの（「殺害する」、「出版する」）、自他両用法のもの（「拡大する」、「開店する」）がある。自動詞はさらに意図的な動作を行う「動作主」（Agent）を主語に取る非能格自動詞（「読書する」）と「対象」（Theme）を主語に取る非対格自動詞に分けられる（「爆発する」）。¹⁾（影山1993、1996）

「読書する」などの動詞は語の内部に「本を読む」という他動詞的要素を持っており、「読書する」全体は自動詞相当の機能しか持たない。つまり、(1)のように「*源氏物語を読書する」とは言えない。しかし、動詞によっては「出題する」、「受診する」のように、文中でさらに目的語を取るものがある。

- (1) *太郎が源氏物語を読書する。
- (2) 全国学力調査は小学6年と中学3年を対象に、国語と算数・数学を出題し、生活ぶりなどを聞いた。（朝日新聞2008/12/06）
- (3) 新型インフルエンザの感染拡大を受け、症状がないのに医療機関を受診するケースが県内でも相次ぎ、医師らが対応に悩んでいる。

（朝日新聞2009/10/08）

「読書する」、「受診する」、「出題する」は国語辞典にはどれも自動詞と表記されている。しかし、(1)のようにヲ格を取らず自動詞として使われるものもあれば、(2)、(3)のようにヲ格を取って他動詞として使われるものもある。

このように、V-N型の漢語動詞²⁾（以下、略して「VNする」とする）は文中での自他の振る舞いが一様ではない。では、「VNする」の中でどのような動詞は目的語を取ることができ、どのような動詞は目的語を取らないのか。またそ

れはなぜなのか。本稿ではこの点について「VNする」の「V」の自他性との関わりから考察する。

2. 先行研究と問題提起

これまでの漢語動詞の語構成研究は、造語パターンを分類・整理することに重点を置いており、漢語動詞が文中で統語的にどのように振る舞うかという研究は遅れているが、仁田（1980）や小林（2004）を挙げることができる。

仁田（1980）は「落馬する」のような漢語動詞を分析するに当たってつぎのように述べている。

文の構造といったものを考えることが、語の語構成を考察することになり、語の構成のあり方を考察することが、文の内的構造のあり方およびその意味解釈を理解することになる。この種の動詞の考察にあたっては、語構成に文構成を見、文構造に語構成を見ることになる。

（仁田1980：328）

これは漢語動詞の自他を考察する際に、その語構成をみる必要があることを示唆している。

一方、小林（2004）は漢語動詞の語構成が文中での振舞いについて包括的に分析している。小林（2004）は名詞的要素「N」と関係付けられた項（以下「項」と略す）を取るかどうかという観点から「VNする」を以下の3つに分けている。

- ① 項を取れないタイプ：飲酒する、挙式する、処刑する
- ② 項を取れるタイプ：投票する、登山する、入院する
- ③ 項を取らなければならないタイプ：開封する、観戦する、除名する

また、文中で項を取れる場合、項と名詞的要素「N」は、「富士山に登山する」の「富士山」と「山」のような包摂関係、または「富士山に登頂する」の「富士山」と「頂」のような所属関係にあると論じている。小林（2004）の分類は「VNする」が項を取るか取らないか、また、取る場合はどの性質を持った項を取るかについて検証したもので重要な意義を持っている。

しかし、小林（2004）では③の「医療機関を受診する」のように包摂関係と

も所属関係とも異なるものについては言及していない。また、仁田(1980)、小林(2004)は「VNする」の自他をその名詞的要素「N」との関わりから論じたもので、動詞的要素「V」との関わりから論じたものではない。

本稿で取り上げる「VNする」はこのような項を取るか取らないのか、「VNする」の動詞的要素「V」が自動詞用法なのか他動詞用法なのか、または自他両用法なのかという点で複雑な様相を見せている。

3. 研究対象と研究方法

一般的に、「VNする」の語彙的意味は、漢語動名詞（漢語動詞の「する」をとった部分。例えば、「入院する」の「入院」の部分）の構成要素間の意味関係から読み取ることができる。例えば「入院する」は「病院に入る」という意味関係から読み取れる。ただし、「入院する」と「病院に入る」は意味的に完全に一致するわけではない。前者は患者が治療・検査を受けるために所定の手続きを経て一定期間病院に入ることであるが、後者は必ずしも「入院」を意味するのではなく、お見舞いなど別の用事で病院に入って行く場合でも「病院に入る」と言える。ここで大事なのは「入院する」と「病院に入る」の意味的・構文的特徴が似ているという点である。

それに対し、中には漢語動名詞の構成要素間の意味関係から漢語動詞の意味的・構文的特徴が読み取れないものもある。例えば、「出馬する」は構成要素だけを見ると「(小屋から)馬を出す」や「(小屋から)馬が出る」という意味で解釈できるが、実際には「戦場に馬を出す」というところから派生して、「出陣する」という自動詞用法で使われている。

したがって、本稿では「入院する」のように動詞的要素「V」と名詞的要素「N」の意味関係から漢語動詞の意味が理解できるものを研究の対象にする。

本稿における動詞の自他の判断基準は、「窓ガラスを割る」のように目的語としてのヲ格名詞を取る動詞は他動詞、それ以外の動詞は自動詞とする。「川を渡る」の「渡る」などはヲ格名詞を取るものの、このヲ格名詞は動作・行為が直接及ぶ対象ではなく、経路を表す。つまり、「川を」は目的語ではないため自動詞とする。

研究方法として、まず「VNする」を動詞的要素「V」の自他性によって他動詞用法のみ、自動詞用法のみ、自他両用法の3つに分け、それぞれの「VNする」全体の自他性はどうかを考察する。次に、「VNする」の「V」が他動詞用法を持ち、「VNする」全体も他動詞用法を持つ要因について分析する。

4. 「VNする」全体の自他性と「V」の自他性の関わり

「VNする」は動詞的要素「V」の自他性によって以下の3つに分けることができる。

- a. 「V」が他動詞用法しか持たないもの
「読書する」：本を読む
「除名する」：名を除く
- b. 「V」が自動詞用法しか持たないもの
「着色する」：色が着く
「来日する」：日本に来る
- c. 「V」が自他両用法を持つもの
「減量する」：量が減る／量を減らす
「開店する」：店が開く／店を開く

では、「VNする」の「V」の自他性は「VNする」全体の自他性とどのように関わるのだろうか。

4. 1 「V」が他動詞用法のみの場合

「VNする」の「V」が他動詞用法のみの場合、「V」は対応する自動詞を持たない無対他動詞であり、「V」と「N」は「NをVする」の意味関係を持つ。「VNする」全体は自動詞用法のものと他動詞用法のものがあり、自他両用法はない。

- 1) 「VNする」全体が自動詞用法のもの：
読書する、求婚する、授乳する、拍手する、訪日する、洗顔する
- 2) 「VNする」全体が他動詞用法のもの：
観戦する、看病する、企画する、求刑する、兼職する、撮影する
課税する、受診する、除湿する、撤兵する、放火する、保温する
- 3) 「VNする」全体が自他両用のもの：
なし

4. 2 「V」が自動詞用法のみの場合

「VNする」の「V」が自動詞用法のみの場合、「VNする」全体は自動詞用法しか持たない。「V」と「N」には、「NがVする」、「NをVする」及び「NにVする」などの様々な意味関係が含まれる。

- 1) 「VNする」全体が自動詞用法のもの
 - ① 「NがVする」
安心する、竣工する、成約する、着色する
 - ② 「NをVする」
越境する、休場する、休診する、徹夜する、架橋する、渡海する
 - ③ 「NにVする」
従事する、就職する、乗車する、通院する、登山する、来日する
- 2) 「VNする」全体が他動詞用法のもの：
なし
- 3) 「VNする」全体が自他両用のもの：
なし

4. 3 「V」が自他両用法の場合

「VNする」の「V」が自動詞と他動詞の両用法を持つ場合、「VNする」全体の自他性は自他両用法のものもあれば、自動詞用法、他動詞用法のものもある。

- 1) 「VNする」全体が自動詞用法のもの
出火する、出国する、入院する、発芽する、返信する、離陸する、
- 2) 「VNする」全体が他動詞用法のもの
停電する、開封する、加筆する、出荷する、出版する、整形する
- 3) 「VNする」全体が自他両用法のもの
開業する、減量する、出庫する、断水する、入庫する、解約する

5. 「VNする」が他動詞用法を持つ要因

5. 1 ヲ格目的語が「N」と包摂関係を表す場合

影山（1980）、小林（2004）は、「VNする」全体が目的語をとる場合、その目的語は「VNする」の「N」の下位語であり、両者は包摂関係にあると指摘している。まず、「出題する」の例を見てみる。「出題する」の「出」は「出る」と「出す」の自他両用を持っているが、「出題する」全体は以下のように目的語としてのヲ格名詞（句）をとることがある。

- (4) 全国学力調査は小学6年と中学3年を対象に、国語と算数・数学を出題

し、生活ぶりなどを聞いた。(例(1)の再掲)

- (5) 県教委は、中学校での選択学習に対応するため、全科目で選択問題を出題したことで、英語や国語など書かせて表現力を問う問題を多くしたことの二項目の改善点をあげた。「正解はこれまでの入試のように一つとは限らず、幅広い答えのある問題を出題することで、解答に至る過程や表現力を評価するよう工夫した」という。

(朝日新聞1997/03/19)

(4)では「国語と算数、数学」を目的語として取っており、(5)では「選択問題」と「幅広い答えのある問題」を目的語として取っている。「国語と算数、数学」と「幅広い答えのある問題」はいずれも「出題する」の名詞的要素「題 (問題)」の内容をさらに具体化したもので、「選択問題」は「題 (問題)」の出題形式を具体化したものである。

また、これらの目的語としてのヲ格名詞 (句) は「出題する」の主語にならない点で他の自他対応する動詞と性質が異なる。

- (5)' a. 県教委が出題した。
b. *選択問題が出題した。
c. 選択問題が出題された。

このように、「出題する」という行為は必ず意図性を持った動作主によって実現するものであり、この点では非能格自動詞の性質を持っているが、その反面、(5c)' のように直接受身になるという点では他動詞の性質を持っているとも言える。

「出題する」のように「N」の下位語をヲ格目的語としてとる漢語動詞はほかにも以下のようなものがある。

「出資する」

- (6) 資銀行が、経営不振に陥った企業に公的資金を出資するかどうかを決める審査基準 (ガイドライン) の原案が明らかになった。

(朝日新聞2009/05/14)

「出炭する」

- (7) さらに同通産局では、南大夕張砒と同質の高品質炭を出炭している北真谷地炭鉱 (本社夕張市、社長豊口秀哉氏、資本金一億円) が増産して、…

(日本経済新聞1985/05/25)

「受賞する」

- (8) 世界各国で作品が翻訳され、国内でも人気が高い村上春樹氏は、なぜか
芥川賞を受賞していない。(中日新聞2006/01/10)

5. 2 ヲ格目的語が「N」と所属関係を表す場合

小林(2004)は「開封する」のような動詞が項を取る場合、「N」とヲ格目的語³⁾は全体・部分の関係を表すとしている。

- (9) 太郎が花子の手紙を開封した。(小林2004:102)

ここで「開封する」の「封」は「花子の手紙」と包摂関係を成さない。小林(2004)は、「封」は「花子の手紙」の一側面を表すという点で両者は全体と部分の関係を成し、これを「所属関係」と呼んでいる。しかし、⑩の「停電する」のように「VNする」の「N」が目的語と全体・部分の関係にあるとは想定しにくいものもある。

- (10) 作業箇所を停電して実施していた工事についても、間接活線工法や無停電工法での施工が可能となり、作業に伴う停電の減少、停電範囲の縮小が可能となります。

(『日経テレコン21』プレスリリースデータベース2003/10/24)

「停電する」の「電(気)」は目的語「作業箇所」を流れる電流のことを指している。つまり「作業箇所に所属する電気」と捉えることができる。本稿では、「N」と目的語のこのような関係を「所属関係」と呼ぶことにする。

このようにヲ格目的語が「N」と所属関係を表す動詞には、「開封する」、「停電する」のほかに、以下の「除名する」、「整形する」、「保温する」などがある。

「除名する」

- (11) シリア国営通信は1日、シリアの政権党バース党が、テレビ局でアサド大統領を批判したハダム前副大統領を除名した、と伝えた。

(朝日新聞2006/01/03)

「整形する」

- (12) 周りの同級生たちは、履歴書に張る写真のために顔を整形したり、自分をよりよく見せるリクルートスーツを選んだりして、就職活動に突入して

いた。

(朝日新聞2001/04/02)

「保温する」

- (13) 最近は、余ったご飯を保温せずに冷凍し、食べる時に電子レンジで温める人が増えている。
(日経プラスワン2003/11/29)

(11)、(12)、(13)は、それぞれ「前大統領の名 (を除く)」、「顔の形 (を整える)」、「ご飯の温度 (を保つ)」という所属関係を表している。

5. 3 ヲ格目的語は「N」の行為が行われる場所を表す場合

「受診する」のような漢語動詞は、ヲ格目的語と「N」の間に包摂関係とも、所有関係とも異なる目的語を取ることがある。

- (14) 新型インフルエンザの感染拡大を受け、症状がないのに医療機関を受診するケースが県内でも相次ぎ、医師らが対応に悩んでいる。

(例(3)の再掲)

- (15) 最新の全国調査で、水虫の治療以外の目的で皮膚科を受診した患者の四人に一人が、水虫にかかっていることがわかった。

(中日新聞2008/06/20)

(14)、(15)でヲ格目的語である「医療機関」、「皮膚科」は「受診する」の「診察」の下位語でもないので包摂関係にならない。「医療機関の診察を受ける」、「皮膚科の診察を受ける」という構文には置き換えられるが、所属関係ではなく、「N」(診察)を受ける組織に相当するもので広い意味での場所を表す。「医療機関で診察を受ける」のように場所を表す構文に置き換えられる。つまり、この場合ヲ格目的語は「N」の行為が行われる場所を表している。

一方、「受診する」は(16)のように「専門医」などの所属関係を表す人名詞を目的語として取ることができる。

- (16) 米国は、医療保険の種類によっては最初から専門医を受診できないこともある。
(朝日新聞2009/10/05)

しかし、(17)のように「内診」などの包摂関係を表すヲ格名詞は目的語として取ることはできない。

- (17) *太郎が内診を受診した。

6. 終わりに

本稿では、「VNする」の語構成と自他の関わりについて考察した。まず、動名詞の動詞的要素「V」の自他性と「VNする」全体の自他性の関わりについて考察した。その結果をまとめると次の【表1】のようである。

【表1】「VNする」全体の自他性と「V」の自他性の関わり

「V」の自他	「VNする」全体の自他	例
他動詞のみのもの	自動詞用法	読書する、訪日する
	他動詞用法	観戦する、求刑する
	自他両用法	なし
自動詞のみのもの	自動詞用法	安心する、乗車する
	他動詞用法	なし
	自他両用法	なし
自他両用のもの	自動詞用法	出火する、入院する
	他動詞用法	開封する、出荷する
	自他両用法	出店する、減税する

また、「VNする」の「V」が他動詞用法を持っていながら「VNする」全体も他動詞用法を持つ場合、「VNする」の「N」とヲ格目的語は包摂関係（「出資する」）と所属関係（「除名する」）およびヲ格目的語が「N」の行為が行われる場所という関係（「受診する」）が成り立つことが示された。

本研究で考察したように、日本語のV-N型の漢語動詞は「V」自体の自他と「VNする」全体の自他の間で複雑な様相を示すものがたくさんある。今後は「出Nする」や「受Nする」などの個別研究を行い、V-N型の漢語動詞の語構成と自他の関わりについて考察を深めていきたい。

注

- 1) 非能格自動詞の主語は統語構造では他動詞の主語と同じであるが、非対格自動詞の主語は統語構造では他動詞の目的語に相当する。

他動詞 ：太郎が 卵を 割る。

非能格自動詞：太郎が 暴れる。

非対格自動詞： 卵が 割れる。

- 2) 漢語動詞は語構成によって主に次の4つに分けられる。①V-N型：「読書する」、「出資する」のように動詞的要素「V」と名詞的要素「N」が結合してできたもの②V-V型：「研究する」、「殺害する」のように動詞的要素同士が結合してできたもの③M-V型：「病死する」、「体験する」のように動作や状態の程度・内容を限定・修飾する要素「M」と動詞的要素「V」が結合してできたもの④「拡大する」、「説明する」のように動詞的要素と形容詞的要素で結合してできたもの（野村1999、張2007を参照）なお、本稿では①のV-N型の漢語動詞について考察する。
- 3) 小林（2004）は、ヲ格名詞のほかに「富士山に登頂する」の「富士山に」のようにニ格名詞も考察の範囲に入れてある。

参考文献

- 影山太郎（1980）『日英比較 語彙の構造』松柏社
 影山太郎（1993）『文法と語形成』ひつじ書房
 影山太郎（1996）『動詞意味論一言語と認知の接点』くろしお出版
 影山太郎（2002）「非対格構造の他動詞—意味と統語のインターフェイス」
 『文法理論：レキシコンと統語』東京大学出版会
 小林英樹（2004）『現代日本語の漢語動名詞の研究』ひつじ書房
 張 善実（2007）『日本語と中国語の漢語動詞の構文的特徴について—他動性とのかかわりから—』東外外国語大学大学院地域文化研究科修士論文
 仁田義雄（1980）『語彙論的統語論』明治書院
 野村雅昭（1999）「サ変動詞の構造」『日本語研究と日本語教育』明治書院

用例の出典

- 『聞蔵ビジュアルⅡ』朝日新聞 1985年～2009年6月30日
<http://database.asahi.com/library2/main>
 『日経テレコン21』 1985年10月～2009年6月30日
<http://telecom21.nikkei.co.jp/nt21/service>
 『中日新聞・東京新聞記事検索サービス』1985年10月～現在
<http://www.cnc.ne.jp/ip>